

ケーブル技術スタッフの機器チェック!

日々開発されるケーブルテレビ関連機器を、技術スタッフが  
厳しい目でチェック! 実用性に焦点を当てて報告します。

No.  
**115**

NHKワールドJAPANのステレオ化

豊島ケーブルネットワーク(株) 技術部 部長 上山裕史

今回は9月に実施されたNHKワールドJAPANのステレオ化について紹介します。

NHKワールドJAPANは24時間英語放送を実施している放送局です。訪日・在日外国人の日本への理解を促進することを目的としており、静止衛星のインテルサット19号からの電波を受信します。今回は、NHKワールドJAPANが2018年9月25日14時58分から15時の間に音声をステレオ化したので報告します。

ステレオ化を確認する方法として、TSアナライザを用います。

パラボラアンテナで受信した信号を、DVB-S2復調に対応したDEKTEC社DTE-3137でASI(Asynchronous Serial Interface)信号に変換した後、TS(トランスポートストリーム)アナライザに入力します。復調器の外観を写真1に示します。DVB-SはDigital Video Broadcasting-Satelliteの略で、静止衛星から送信されるデジタル放送の形式のひとつです。このTSにはスクランブルされたプレミアムと、ノンスクランブルのNHKワールドJAPANが

マルチプレクスされていることがわかります。

変更前のNHKワールドJAPANの音声にかかわるTSアナライザの表示を図1に示します。音声はMPEG-1の圧縮形式でモードはモノラル、ビットレートは96Kbpsであることがわかります。次に変更後のTSアナライザの表示を図2に示します。圧縮形式はMPEG-1でモードがステレオ、ビットレートは128Kbpsになったことがわかります。

今回のような放送TSに含まれる制御情報の変更はTSアナライザで該当部分を見るのがわかりやすいです。

ケーブルテレビ局にとって、なじみの薄いCバンド衛星受信のNHKワールドJAPANのステレオ化を紹介しました。魅力的なチャンネルを増やしケーブル局の魅力を増加させましょう。



写真1:復調器の外観



図1:変更前のTSアナライザ表示

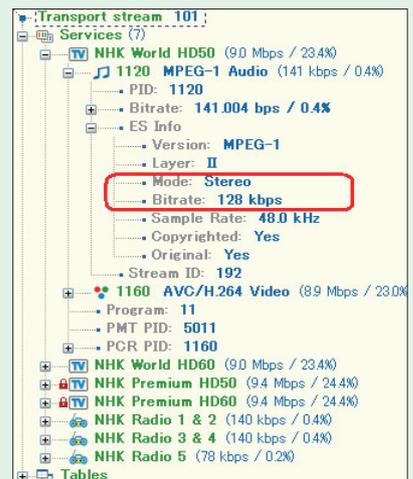


図2:変更後のTSアナライザ表示